

海外安全対策情報(令和6年1月～3月)

パプアニューギニア

1. 社会・治安情勢

パプアニューギニア（以下PNG）では金品強奪を目的とした犯罪や、部族間抗争に端を発する暴力事件が各地で頻発している。1月には公務員給与の支払いに不満を抱いた警察官等によるストライキを端緒にポートモレスビーの治安が急激に悪化し、非常事態宣言が発令される事態が生じた。2023年のPNG警察犯罪統計によれば、事件発生件数は昨年から減少傾向を示しているものの、一般報道等と照らし合わせると、当地官憲の認知外での事件が相当数看過されていると考えられる。PNGでは多くの場合、強盗集団（一般に「ラスカル」と呼ばれる）が蛮刀、ナイフ、市販されている銃や手製銃等を使用するため、万が一、強盗等に遭遇したり、事件に巻き込まれたりした場合には、身を守るため、金品などの所持品を奪われても抵抗や反撃をすべきではない。また、カージャック被害も昼夜、場所を問わず多発しているため併せて注意が必要である。婦女暴行目的の誘拐や暴行後に殺害されるケースも多く、社会に深刻な不安を与えている。

2. 首都ポートモレスビーにおける一般犯罪・凶悪犯罪

(1) 犯罪概況

当地官憲、UNDSS（国連安全警備局）、民間警備会社等から入手した情報（2024年1月～3月）によれば、首都ポートモレスビー市内で発生した総犯罪件数は172件であった。昨年同時期と比較し、犯罪発生件数が30件増加した。特に1月のポートモレスビーにおける治安騒乱時、商店略奪や強盗事件の発生件数が市内全域で急激に増加している。

1月～3月における事件種別ごとの件数は次のとおり。

強盗/盗難 58件、商店略奪 36件、カージャック 26件、殺人 9件、住居侵入 6件、抗争等 7件、その他 30件

(2) ポートモレスビー市内における注意を要する事案

1月10日（水）、政府の給与システムの欠陥により警察や国防軍を含む公務員等に減額された給与が振り込まれたことを受け、警察及び国防軍は抗議のため職務を放棄し国会に集結した。その後、警察官等はゴードンズ地区ウナギオーバル広場に抗議のために再度集結した。これを発端に市中において市民等による暴動が発生・拡大し、商業施設への放火及び略奪、政府庁舎への投石、首相府門衛所及び警備車両への放火、警察車両等の強奪行為等により、市中の治安が急激に悪化した。マラペ首相は11

日、秩序回復のためにポートモレスビー域内全域に対して非常事態宣言を発令した。同宣言発令以降、事態は沈静化し市中の治安は徐々に落ち着きを取り戻した。

3. 地方部におけるにおける一般犯罪・凶悪犯罪

2月18日（日）午前4時頃から午後5時までの間、ワペナマンダ地区とワバク地区を結ぶハイランド・ハイウェイ沿いでシキン族及びカエキン族の2部族とアンブリン族間で長らく継続している部族間闘争が激化し大規模な銃撃戦へと発展した。死亡者は数十名に上ると報道されている。

4. 邦人被害事案

2024年1月～3月の期間中に邦人を標的とした事件は発生していない。

5. 誘拐事件発生状況

2月26日（月）、ヘラ州シサ山付近で、Digicel（当地通信会社）が所有する通信塔の点検を行っていた豪州人パイロット1名及びPNG人通信技術者2名が地元住民により構成された実行犯グループに拉致拘束された。実行犯は身代金500万キナ（約2億円）の支払いを要求したが、警察、国防軍及び地元住民の迅速な行動により約6時間後に全員解放された。

以上